



決め手は、青森県産。

りんご生産情報第9号
(8月8日～8月25日)



見直し摘果マン

令和5年8月7日発表
青森県「攻めの農林水産業」推進本部

良品生産に向け、見直し摘果の徹底を！
つがるの落果防止剤（ストップール液剤）の散布は8月15日頃!!
日焼けや風害の防止対策を万全に!!!

I 概要

8月1日現在の果実肥大は、各品種とも平年を上回っている。

園地によっては着果量の多い樹が見られる。今一度着果量を点検し、肥大の劣る果実や形の悪い果実、病虫害被害果、さび果等を主体に見直し摘果を徹底する。

「8月半ば」の薬剤散布は、黒石、弘前、三戸で8月15～16日頃実施する。散布むらが生じないように基準散布量を守り、降雨前の散布を徹底する。

つがるの落果防止剤（ストップール液剤）の散布は、8月15日頃に行う。

ハダニ類の発生が見られているので、発生動向を見極めながら適正な防除を行う。

気温が高くなる日が続くので、着色手入れの際は果実の日焼けを起こさないよう注意する。

台風や強風に備え、防風網の点検、補強などの風害防止対策をしっかりと行う。

報道機関用提供資料	
担当課	農林水産部りんご果樹課
担当者	生産振興グループ GM 小笠原 宜弘
電話番号	直通 017-734-9492 内線 5092
報道監	農林水産部 次長（農商工連携推進監）成田 澄人 内線 4966

II りんご生産情報

1 果実肥大、作業の進み、病害虫の動き

(1) 果実肥大

各品種とも平年を上回っている。

○果実肥大

(8月1日現在、横径cm、平年比%)

地 域	年	つがる	ジョナゴールド	ふ じ
黒 石 (りんご研究所)	本 年	7.8	7.5	6.9
	平 年	7.1	7.0	6.2
	前 年	7.6	7.3	6.8
	平年比	110	107	111
青森市浪岡北中野 (東青地域県民局)	本 年	7.5	—	6.3
	平 年	7.1	—	6.0
	前 年	7.8	—	6.6
	平年比	106	—	105
弘前市独狐 (中南地域県民局)	本 年	8.1	7.1	6.8
	平 年	7.3	6.8	6.1
	前 年	7.6	7.2	6.2
	平年比	111	104	112
板柳町五幾形 (西北地域県民局)	本 年	7.8	—	7.4
	平 年	7.2	—	6.1
	前 年	7.3	—	6.5
	平年比	108	—	121
三戸町梅内 (三八地域県民局)	本 年	8.2	7.7	6.8
	平 年	7.1	6.6	6.0
	前 年	8.0	7.2	6.4
	平年比	116	117	113

注) 各県民局のデータは農業普及振興室の生育観測ほ調査データ

(2) つがるの果実熟度

8月5日現在、黒石では平年と比較して、硬度、糖度、酸度、ヨード反応及び着色は低い。総合的に見て、熟度は平年よりも進んでいると見込まれる。

○つがる(無袋)の熟度の進み

(調査月日：8月5日)

地 域	年	果重 (g)	着色 指数	硬度 (ポイント)	糖度 (brix%)	酸度 (g/100ml)	ヨード 反応
黒 石 (りんご研究所)	本年	205	0.1	16.1	10.0	0.310	4.8
	平年	175	0.3	18.0	10.4	0.376	5.0
	前年	187	0.3	16.4	9.5	0.339	4.9

注1 調査系統：普通系

2 平年：2002年～2020年の19か年平均

3 着色指数：0～5 (大きい数値ほど着色良好)

4 ヨード反応：ヨードデンプン反応指数0～5
(小さい数値ほどでんぷんが少ない)

(3) 作業等の進み（8月2日現在）

見直し摘果、徒長枝整理や支柱入れが行われている。

(4) 病害虫の動き

（8月2日現在 りんご研究所）

斑点落葉病	感染継続中 殺菌剤無散布の県予察圃での新梢葉発病葉率（スターキング） （本年：7月31日36.5%、平年：7月30日8.2%）
褐斑病	感染継続中
黒星病	感染継続中
モモシクイガ 及びナシヒメシクイ	成虫の羽化及び産卵継続中
リンゴハダニ 及びナミハダニ	卵～成虫が混在。幼虫～成虫が葉を加害中
リンゴコカクモンハマキ	第1世代幼虫主体
キンモンホソガ	第3世代幼虫主体
クワコナカイガラムシ	第1世代幼虫主体

2 作業の重点

(1) 見直し摘果

園地によっては着果量の多い樹が見られる。着果量が多いと、翌年産の花芽形成などに悪影響を及ぼすので、今一度着果量を点検し、肥大の劣る果実や形の悪い果実、病害虫被害果、さび果等を主体に摘み取る。

(2) 恋空の収穫

着色を待ちすぎて収穫が遅れると、果肉の軟化につながるので、果肉の硬さを確認し、適期に収穫する。

山選果に当たっては、変形果や日焼け果、病害虫被害果などを取り除き、出荷先の基準により選別・出荷する。

収穫した果実は、高温下に置くと果肉の軟化など品質の劣化が早くなるので、すみやかに冷蔵施設に搬入する。

(3) 徒長枝整理、支柱入れ、枝吊り

樹冠内部に十分日光を入れ、葉液の到達をよくするために、不要な徒長枝を切り取る。果実が大きくなるにつれて枝が下がり、重なり合ってくるので支柱入れや枝吊りを行う。黄色品種でも行い品質向上に努める。

日焼け果の発生防止のため、高温が続くと予想される場合は、徒長枝の整理や

支柱入れ等の作業は控える。

(4) 収穫前落果防止剤の使用

ア ストッポール液剤 (1,000倍、展着剤不要)

未希ライフときおうでは8月10日頃、つがるでは8月15日頃に単用散布する。使用回数は1回、10a当たり散布量は350~400ℓとする。

ストッポール液剤は葉から吸収されて効果を出すので、葉に十分かかるようにする。葉摘みは散布4~5日後から始める。散布後7日間は収穫できないので注意する。

2回散布や早出しを目的とした極端な早期散布、着色促進剤との併用などは、果肉の軟化や油あがり著しく早まるほか、年によっては裂果やつる元の腐敗が発生するので、絶対に行わない。

イ ヒオモン水溶剤 (2,000倍、展着剤不要)

きおうでは8月10日頃、つがるでは8月20日頃に単用散布する。使用回数は1回、10a当たり散布量は300~600ℓとする。

薬液が葉先から滴り始める程度に、樹全体に丁寧に散布する。葉摘みは散布当日から始めてもよい。散布後4日間は収穫できないので注意する。

ヒオモン水溶剤を使用した果実の熟度の進みや日持ちは、無処理の果実と同等である。

(5) つがるの着色手入れ

高温・晴天が続く場合は、果実の日焼けを起こさないよう注意する。

つがるは果面温度の上昇や直射日光により日焼け果が発生しやすいので、早くからの強い葉摘みは控える。葉摘みはある程度着色した頃から始める。

日焼け果の発生を軽減するため、遮光資材(遮光率10~20%程度)を樹上に被覆する。なお、遮光資材は、日焼けの心配がなくなり次第取り外す。

(6) 「8月半ば」の薬剤散布

「8月半ば」の薬剤散布は、黒石、弘前、三戸で8月15~16日頃に実施する。

薬剤散布に当たっては収穫前日数や年間使用回数などに注意する。散布むらが生じないように基準散布量を守り、降雨前の散布を徹底する。

無袋栽培では毎回、シンクイムシ類防除剤を使用する。

「8月半ば」

地域	散布時期	基準薬剤	散布量/10 a
黒石 弘前 三戸	8月15～16日頃	アリエッティC水和剤 又はダイパワー水和剤 又はベフラン液剤25	800倍 1,000倍 1,500倍

炭疽病の発生が多い園地では、ベフラン液剤25を選択し、オーソサイド水和剤80の800倍も散布する。

アリエッティC水和剤及びベフラン液剤25は、殺虫剤又は殺ダニ剤と組み合わせる場合、最後に調合する。

(7) 斑点落葉病対策

急増が懸念される場合は、ポリオキシシンAL水和剤1,000倍も使用する。

ポリオキシシンAL水和剤は薬剤耐性発達の懸念があるので、連続散布を避ける。

(8) 腐らん病対策

腐らん病は感染してから1～2年後に発病するため、適切な対策を速やかに講じることが重要である。

夏場でも降雨により未処置病斑から孢子が飛散し、来年以降の発生につながるため、胴腐らんの治療部を再点検し、病斑の進展が見られる場合は直ちに適切な処置を行う。胴腐らんの発病が著しい樹は、伝染源になるので積極的に伐採し、速やかに園外へ搬出する。

(9) 黒星病対策

気温が高くなると黒星病の発生は一時的に停滞するが、菌密度を減らすため、被害葉、被害果は見つけ次第摘み取り、適切に処分する。

(10) 炭疽病対策

被害果は見つけ次第摘み取り、適切に処分する。

伝染源となるニセアカシアやくるみ類などは、りんご園の周りから取り除く。

(11) ハダニ類対策

発生状況に応じて適正な防除を行う。散布の目安は1葉当たり2個体以上あるいは寄生葉率50%以上である。殺ダニ剤は薬剤抵抗性が出やすいので、年2回以内使用のものでも年1回の使用とする。

ダニサラバフロアブル、スターマイトフロアブル、ダニコングフロアブルは合わせて年1回の使用とする。

ダニオーテフロアブルは銅剤（有機銅剤及びオキシラン水和剤）と混用しない。銅剤を散布した後は使用しない。

リンゴハダニとナミハダニに対する殺ダニ剤の適用表

薬剤名	倍数	使用時期	年間 使用回数	リンゴ ハダニ	ナミ ハダニ
サンマイト水和剤	1,500倍	収穫21日前	1回	○	×
バロックフロアブル	2,000倍	14日	2回以内	○	×
エコマイト顆粒水和剤	2,000倍	7日	1回	○	○
オマイト水和剤	750倍	3日	1回	○	○
コロマイト乳剤	1,000倍	前日	1回	○	○
マイトコーネフロアブル	1,000倍	前日	1回	×	○
ダニサラバフロアブル	1,000倍	前日	2回以内	○	×
スターマイトフロアブル	2,000倍	前日	1回	○	×
ダニコングフロアブル	2,000倍	前日	1回	○	×
ダニオーテフロアブル	2,000倍	前日	1回	○	○

○：効果が高い、×：効果が低い

(12) シンクイムシ類対策

被害果は見つけ次第摘み取り、適切に処分する。

もも、なし、日本すもも、プルーン、マルメロなども発生源になるので、適切な管理を行う。

(13) クワコナカイガラムシ対策

発生が多い園地では、8月上旬（前回散布の10日後頃）にアプロードフロアブル以外の防除剤による胴木洗いを行う。また、8月中旬（成虫の産卵前）にバンド巻きを行う。

被害が多く、袋の汚染が多い場合は、早めに除袋して被害の軽減を図る。

(14) 土壌乾燥対策

苗木や若木は乾燥の影響を受けやすいので、園地の状況を把握し、干天日（降水量5mm未満）が2週間程度続いたら、1㎡当たり200程度をかん水する。

また、草からの蒸散を防ぐため、草刈りをこまめに行い、樹冠下に敷き草する。

(15) 風害防止対策

台風の接近や強風に備え、防風網やわい性台樹の結束状況などを再度点検し、補強や取り替えを行う。

幹や主枝などに空洞が生じている樹や腐らん病の被害を受けた枝や樹は、支柱で支え、縄などで補強する。幼木は倒伏しやすいので支柱を立てて結束する。

(16) 鳥害防止対策

ムクドリ（サクラドリ）、ヒヨドリ、カラスなどの被害が大きいところでは、防鳥網を使用する。防鳥網の網目は35mm以下とする。

(17) ビターピット防止対策

樹勢が強く、果実肥大が旺盛な園地では、ビターピットが発生しやすいのでカルシウム剤の果面散布を丁寧に行う。

樹勢の弱い樹や高温時、あるいは干ばつ時には薬害発生（葉縁褐変）の恐れがあるので避ける。

カルシウム剤の散布方法

資材名	散布時期 (散布間隔)	資材形状	水100ℓ当たり 使用量 (倍数)	散布回数 (回)
スイカル	6月上旬～9月中旬 (10日以上)	粉状	330 g (300倍)	3～5
セルバイン	6月上旬～9月上旬 (10日以上)	粉状	250 g (400倍)	3～5
アグリメイト	6月上旬～9月中旬 (15日以上)	液状	200mℓ (500倍)	5

3 一般作業

- (1) 草刈り (2) 極早生品種の収穫 (3) 早生品種の着色手入れ

4 今後の作業 (8月26日～9月15日)

- (1) 樹上選果 (2) 早生品種の収穫 (3) 薬剤散布
(4) すず斑病・すず点病対策 (5) 中生種の着色手入れ (6) 風害防止対策
(7) 鳥害防止対策 (8) 草刈り

青森県農薬危害防止運動展開中 (6月～8月) !

《 農薬使用基準の遵守 》

農薬を使用する場合は、必ず最新の農薬登録内容を確認する。

○農林水産省「農薬登録情報提供システム」 (<https://pesticide.maff.go.jp/>)

農薬の使用にあたっては、事前に周辺住民に対し、農薬の散布日時や使用者の連絡先等を十分な時間的余裕を持って知らせる。また、農薬の飛散により、周辺作物や近隣の住宅等に被害を及ぼすことのないように農薬飛散低減対策に留意して散布する。

《 農業保険に加入し、農業経営に万全の備えを!! 》

農業保険には、果樹共済、農業経営収入保険などがあります。自分の経営にあった保険を選択、加入して、自然災害をはじめとしたリスクに備えましょう。

詳しくは、お近くの農業共済組合まで、お問い合わせください。

《 りんご研究所参観デーのお知らせ 》

黒石会場（りんご研究所）：9月6日（水）と7日（木）

五戸会場（りんご研究所県南果樹部）：9月14日（木）

※研究成果についてポスターによる展示などがあります。

※詳しくは、りんご研究所「イベント情報一覧」

(<https://www.aomori-itc.or.jp/docs/2019050900015/>)

農作業安全を心がけましょう！

熱中症予防には、こまめな休憩と水分の補給をしっかりと行いましょう！

次回の発行は令和5年8月25日（金）の予定です。